事務事業評価シート

評価実施年度： 平成３０年度

上位の施策名称	施策Ⅲ－４－１ 多様な自然の保全

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課長　前島　和弘	電話番号	0852-22-5167

事務事業の名称		緑化推進事業
目的	（1）対象	県民
	（2）意図	森林の保全、緑化に対する意識を醸成する
事業概要	①緑化相談への対応、緑化研修会の実施（緑化センター） ②水と緑の森づくり事業における情報発信および（公社）島根県緑化推進委員会の会員としての緑化推進（県負担金）	

2.成果参考指標

成果参考指標名等			年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	県民の森林への興味や関心の度合い	目標値		23.0	28.0	33.0	38.0	%
			取組目標値						
	式・定義	「水と緑の森づくり」アンケートで、森林への興味や関心が「とてもある」と回答した県民の割合	実績値	19.0	15.3	15.8			
			達成率	－	66.6	56.5	－	－	%
2	指標名		目標値						件
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	－	－	－	－	－	%

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事　業　費（b）（千円）	17,314	17,176
うち一般財源（千円）	9,137	9,121

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

①緑化センターの緑化木見本園は、H29年度に造園技術を有する嘱託職員が配置され、適切な管理が不十分であった大径高木について、強度の剪定を一部行った。
②県民2,000人を対象に実施した「水と緑の森づくり」アンケートにおける森林への興味や関心が「とてもある」と回答した県民の割合は約16%であった。
　県緑化推進委員会での取組みで、緑の少年団の組織数が111団、団員数は約11,600人となった。

6.成果があったこと（改善されたこと）

①緑化C：明るい見本園に整備されつつある。枯死枝の落下などの危被害発生が回避され、来園者が快適に散策可能な区域が拡大している。
②森林への関心を持ってもらうきっかけとして、校庭デイキャンプを企画したところ、約80名の親子の参加があり、内容についても好評であった。
③緑の少年団の活動が、３年連続で全国での表彰を受けるなど、緑化に対する県民意識の醸成に寄与した。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

①見本園内にはまだ整枝剪定等が必要な大径木が残存している。また、歩道・排水路に破損箇所等があり、来園者が見本園を快適に利用することに支障がある。
②森林への興味や関心が「とてもある」と回答した割合は約16%に留まっている。

②困っている状況が発生している「原因」

①開園から２０数年が経過し、植栽樹木が成長して大径・高木化して、整枝・剪定などの管理作業が困難となっている。
②森林への興味や関心が「少しはある」という回答を合わせると約72%になることから、関心や興味の度合いを深めてもらうことが必要。

③原因を解消するための「課題」

①来訪者が安全・快適に利用するための樹木等の管理計画が必要。また、継続した巡視や管理を維持するため、技術職員の確保と、管理作業を安全に実施するための環境整備（安全作業用具の充実）が必要。
②関心や興味が「少しはある」→「とてもある」、「あまりない」→「少しはある」のように段階的に関心や興味の度合いを移行させるよう、世代や性別、生活環境等に応じた働きかけによって底上げを図る必要がある。

8．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

アンケートにおいて、森林への興味や関心が「とてもある」と回答した割合は約16%だったものの、「少しはある」という回答を合わせると約72%になることから、県民の多くは森林への興味や関心を持っている。2020年に本県で開催される全国植樹祭を見据え、さらなる県民意識の向上を図っていく。

なお、各項目における具体的な取り組みは、以下のとおりとする。

①緑化センター見本園　緑化木の樹木名や性質、適切な管理が学習できる場として、来訪者が安全・快適に利用できるよう、定期的な園内の巡視・危被害回避作業を優先した計画的な整備・管理改善を進めるとともに、広く県民へ見てもらうようPR等を行う。

②情報発信・緑化推進　親子で体験できるイベントの開催や冊子、HPなどの広報活動を通じて、関心の低い世代や親子世代を巻き込み全体の底上げを図る。
広報においては、常に全国植樹祭のPRを盛り込み県民の意識を高めていく。
緑の少年団活動を通じて、子どもの頃から森林や緑化に対する興味や関心を持ってもらうため、引き続き活動を支援していく。